

ぼうしの詩人賞

あつまれ！ 未来の中也たち！

ぼうしの詩人賞

「ぼうしの詩人賞」は山口市内の小学生・中学生を対象とした創作詩のコンクールです。

市内の小中学生が「中原中也」や「詩」に触れる機会を作るために2016年に創設、帽子をかぶった中也の写真のイメージから「ぼうしの詩人賞」と名付けました。

表彰にあたって、入選者による自作朗読の場を設けているのも、中也が朗読を好み、声を通じて詩作を人々に伝えていたことにちなんでいます。

第10回

応募総数 304 篇

応募校数 19 校

表彰式 2025年12月6日(土)
於 小郡地域交流センター

「ぼうしの詩人賞」も今年で10回目を迎えました。夏休み(令和7年8月3日)には、10周年記念事業として「ねえ、詩っておもしろいっっちゃうや?！」と題したワークショップを開催しました。17名のみなさんに参加していただき、1日中、言葉や詩のおもしろさについて考えました。

そして今回、「ぼうしの詩人賞」には、昨年度を大きく上回る数の作品応募がありました。総数は304点(小学校57、中学校247)でした。夏のワークショップ参加者からの応募もあり、審査員一同たいへんうれしい気持ちになりました。応募数もさることながら、すばらしい作品の数々でした。「ぼうしの詩人賞」にふさわしく、感じたことや考えたことを素直な言葉で表現したり、その反対に選びに選んだ言葉で表現したりと、どれも読み応えがあり、審査は簡単ではありませんでした。

その中でも、最優秀賞「ぼうしの詩人賞」に輝いた「海の世界」(鴻南中1年・金川望輝人)は、言葉の選び方がとても優れていました。比喩表現や擬人法といった技法をうまく用いながら、海の世界の静けさや生命の豊かさを表現しており、目の前に海の世界が浮かんでくるようでした。最後の一文〈ただ、命がめぐる場所。〉も、とても印象的でした。

優秀賞は4点。「ギャラクシースープ」(宮野小6年・徳田仁)は、ラーメンのスープに浮いている脂を銀河に見立て、井から広大な宇宙を覗くようなロマンを感じさせてくれました。「オーケストラのまほう」(附属山口小2年・原田樹)は、演奏家の動きの表現が見事で、演奏の生き生きした様子や熱気が伝わってくるようでした。「理想郷」(小郡中3年・浅野陽佑)は、様々な言葉で理想郷を表現していました。難解な表現に惹かれて読んでいる内に、夢の世界と現実世界を行ったり来たりする感じになります。「書斎の机の天板に」(川西中3年・西口愛音)は、一つの世界が描かれながら、奥行きがあり、中也らしさも感じられる作品でした。声に出すと作品全体がゆったりとしたリズムに包まれます。

館長賞は4点でした。いずれもよく工夫されており、審査員を惹きつけました。湯田小学校1年・田中希実さんの「そら」は、短い詩ながら〈おそらにぎぶん〉で、一気に空高く連れて行かれます。「とんび」(宮野小4年・藤井亮哉)は、繰り返し表現を用いてとんびに呼びかけながらも、自分自身に問いかけているようです。「フツウ」(鴻南中2年・阿武璃珠)は、大人への入り口に立つ漠然とした不安な気持ちを、言葉を書き分けながら表現しています。「星空」(湯田中3年・住田隆起)は、ランナーの感覚をとおした世界が描かれています。〈僕は夜に走りたい〉という一文が印象的です。

今回選ばれた作品は、作者がその時の気持ちや思い描く世界にピッタリ合う言葉と出会った時に生まれたと思われるものばかりでした。夏のワークショップでは、中原中也の作品から「たとえ(比喩)、オノマトペ、目や耳で感じる効果」といったことについて考えました。日頃から、読書をしたりいろいろな世代の人とお話ししたりして、たくさんの言葉や表現方法に出会っておくと、何かを感じたり伝えたいときにピッタリ合う言葉が見つかります。

入賞者は以上ですが、審査会では、次の作品も話題になりました。不安を抱きながら強い決意が表れている「風を待つ」(白石小6年・武藤碧音)。恋心を告白した照れる気持ちをシンプルに表現した「花火」(鴻南中1年・高見穂乃花)。日々の別れと永遠の別れを重ねながら、明日の再会を願う「別れのとき」(鴻南中1年・溝口琴子さん)。日々の努力の足跡を消しゴムのかけらに見出している「消しゴムのかけら」(湯田中3年・小倉一花さん)。

この「ぼうしの詩人賞」は、山口市内の小・中学校へ通う子どもたちが、「中原中也」や「詩」への関心を高めるために始まった創作詩のコンクールです。加えて、詩を作ることをとおして子どもたちの心の成長も願っています。今回の応募をきっかけにして、これからもたくさんの言葉の中から自分自身にピッタリと合った言葉を選び、組み合わせて素直な気持ちを詩に表してほしいと思います。みなさんが今もっている「やわらかな心、やわらかな頭」をどうぞ大切にしてください。来年もすばらしい作品に出会えることを心から楽しみにしています。

審査員

- 伊藤 豊 (山口県小学校長会事務局長・元小学校校長)
桑原 滝弥 (詩人)
佐伯 玲子 (元山口県立大学非常勤講師・元中学校校長)
福田 百合子 (中原中也記念館名誉館長)
中原 豊 (中原中也記念館館長)

ぼうしの詩人賞・最優秀賞

入選作品

「海の世界」

金川 望輝人さん（鴻南中学校1年）

優秀賞

「ギャラクシースープ」

「オーケストラのまほう」

「理想郷」

「書齋の机の天板に」

徳田 仁さん（宮野小学校6年）

原田 樹さん（附属山口小学校2年）

浅野 陽佑さん（小郡中学校3年）

西口 愛音さん（川西中学校3年）

館長賞

「そら」

「とんび」

「フツウ」

「星空」

田中 希実さん（湯田小学校1年）

藤井 亮哉さん（宮野小学校4年）

阿武 璃珠さん（鴻南中学校2年）

住田 隆起さん（湯田中学校3年）

秀作

白石小学校	六年	武藤	碧音	「風を待つ」	親離れの気持ち、不安を抱きながら強い決意が表れている点。
鴻南中学校	一年	高見	穂乃花	「花火」	恋心を告白した照れる気持ちを、シンプルに表現した点。
鴻南中学校	一年	溝口	琴子	「別れのとき」	日々の別れと永遠の別れを重ねながら、明日の再会を願う点。
湯田中学校	三年	小倉	一花	「消しゴムのかけら」	日々の努力の足跡を、消しゴムのかけらに見出している点。